

## かかりつけ医の役割

太田南クリニック 院長  
村岡正人 先生

医療費の増加や医師・看護師不足に対応するため、国は医療機関の役割分担を推し進めています。従来の「一つの医療機関が診る」体制から、日常の治療・健康管理はかかりつけ医が、より専門的な検査や治療は高次の病院がそれぞれ担う体制に変えよう、ということです。

このようなかかりつけ医制度は、ファミリードクター、家庭医として欧米やアジア諸国では広く認知されています。総合病院のような細分化された診療ではなく、患者さんの性別、年齢、臓器にとらわれない、広く総合的な診療を行うものです。日常生活の中で罹りやすい病気や軽いけがにはその場で適切な治療を施し、慢性疾患では適切な投薬治療を行い、より専門的な検査や治療が必要な場合には専門科へ紹介します。

体調が悪い時、総合病院の何科に行ったら良いのか、またどんな検査をされるのか、どんな治療をされるのかと不安になって、なかなか行きづらいこともあるでしょう。まずは自分で、とインターネットなどで気軽に調べることもできますが、そこには正しい情報とともに、怪しい見解や誤った情報もあふれています。テレビやマスコミも人目を引きやすいように「めったに起こらないこと」をさも「頻繁に起こること」かのように伝えてきます。不安をさらにおられるような思いをされた方も少なくはないでしょう。そんなときの「相談役」もかかりつけ医の役割の一つです。

また毎年春から秋まで各種がん検診や特定健診が行われます。これらに幅広く対応し、かつ精度の高い検査を行い病気の早期発見に役立つことや、日頃の生活習慣のアドバイスをして病気を未然に防ぐこともかかりつけ医の重要な役割です。